

## ニチレクボール（室内競技）

### ゲームの概要

ルールはペタンクゲームと同様で、サークルの中に立って黄色の標的球に向かって、2チームがそれぞれ赤と青のボールを投げ合い、寄り近づけることによって得点を競うゲームです。

特殊な柔らかいボール（直径 70 mm・重量 400 g）を使用するので、体育館や会議室などで床をいためることなくプレーが楽しめる競技です。

投球は基本的に手の甲を上にしてボールをつかみ、アンダーハンドスローで逆回転させるようにすると良いでしょう。

標的にボールを当てて動かすことも認められていますので、常に大逆転の可能性がある競技です。

プレイヤー 1人対1人のときは、ボールを6個ずつ、2人対2人のときは3個ずつ、3人対3人のときは2個ずつ持ちます。

1試合13点先取ですが、競技時間が少ないときは得点の変更も可能です。

### 競技場

体育館、会議室など、それなりの広さがある室内で行います。

### 用具（1セットあたり）

球 6個 × 2色（赤玉・青玉もしくは緑玉）の12個。

標的玉 1個（通常、黄色玉）

サークル（青い紐） 1輪



### 競技の進め方

競技者を2チームに分け、それぞれ赤と青のボールを持ちます（6個ずつ、計12個）。

競技者2名するとき・・・ひとりの持ちボールは6個でプレーします。

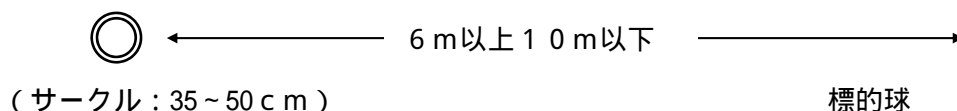
競技者4名するとき・・・ひとりの持ちボールは3個でプレーします。

競技者6名するとき・・・ひとりの持ちボールは2個でプレーします。

### ゲームの仕方

ジャンケンやトスで先行チームを決め、その中の選手がサークルを置き、次に先攻チームの選手が方向を決めてサークルの中から標的球を投げます。

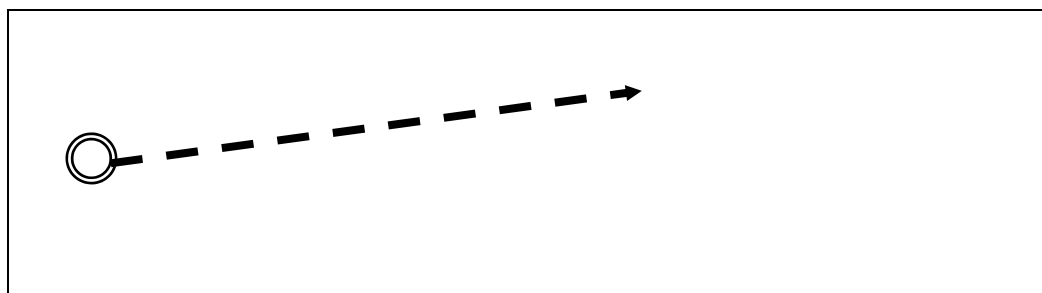
距離は6メートル以上10メートル以下であり、この範囲内に標的球が止まったときに競技の開始です。



続いて、先攻Aチームは標的球の近くに止まるように、第1球目を投げます。

Aチームボール数

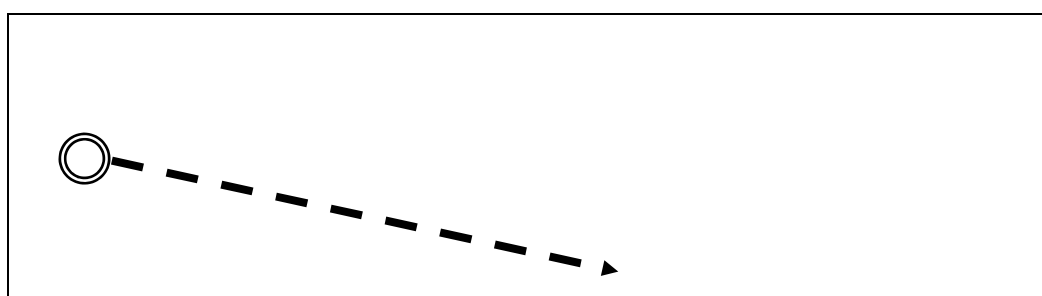
Bチームボール数



次に、後攻Bチームの選手も標的球の近くに止まるように、第1球目を投げます。

Aチームボール数

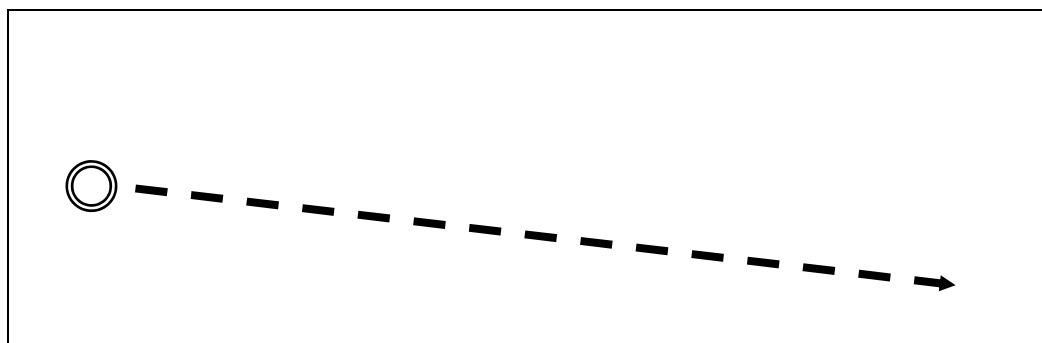
Bチームボール数



標的球から見て近いボールのチームが勝っているので、ここからは負けている遠い方のチームが投球をします。そのチームは味方のボールが一番近くなるまで投球し続けなければなりません。この場合、Bチームのボールが負けているので、Aチームのボールより近づくまで投球を行います。

Aチームボール数

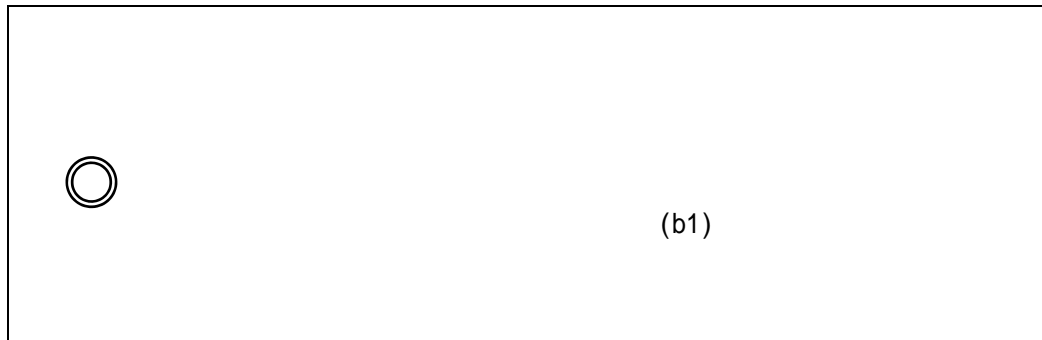
Bチームボール数



片方のチームの持ちボールがなくなったら、もう一方のチームもボールをすべて投げます。  
この場合Bチームはすべて投げ終わったが、Aチームが残り2球持っているので、Bチームの標的球に一番近い球 (b1) より近づくように投げます。

Aチームボール数

Bチームボール数



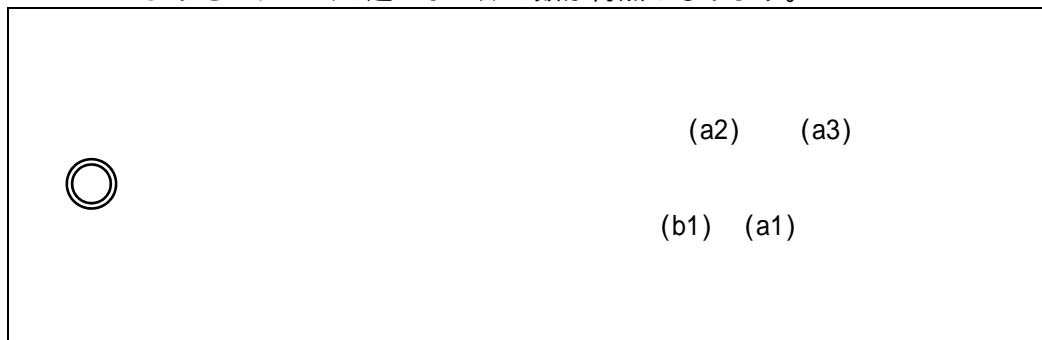
両チームすべて投げ終わったときが (1 セット) の終了となります。

得点計算は次のとおりです。

得点を得られるチーム：標的球に一番近いチーム (Aチーム)

得点の数え方：負けているチーム (Bチーム) の標的球に一番近い球 (b1)

よりもAチームの近いボールの数が得点となります。



\* この場合、負けているBチームの標的球に一番近い球 (b1) より、  
Aチームの球(a1.a2.a3)の3個が近いので3点となります。

Aチーム：3点

Bチーム：0点

勝ったチームはセット終了時の標的球の位置を中心にサークルを描き、そこから標的球を投げて次のゲームを繰り返す、お互いの得点を加算していき、13点先取したチームが勝ちとなります。

どちらのチームのボールが近い目測で判断できない場合は、メジャーを用いて計測を行います。

### 標的球に近づく方法 (戦術) として

味方のボールを押して、標的球に近づく方法。

相手ボールをティール (弾き飛ばす) して、味方 (自分) のボールを標的球に近づく方法。

自分のボールを標的球に当てて、標的球を有利な位置に移動させる方法。

競技風景

